

岩手県文化芸術振興指針の改訂に係る市町村等・文化芸術団体との 意見交換会における主な意見

1 開催概要

(1) 市町村等との意見交換会

	地域	月日 (H26)	会場	出席者（事務局除く）
1	盛岡	9/9 (火)	盛岡地区 合同庁舎	盛岡市、八幡平市、滝沢市、雫石町、岩手町、紫波町、盛岡芸術協会、八幡平市芸術文化協会、葛巻町文化協会、岩手町芸術文化協会、盛岡広域振興局、盛岡教育事務所、県文化芸術コーディネーター（盛岡）、岩手県立美術館、岩手県芸術文化協会 【15団体（18名）】
2	久慈	9/16 (火)	久慈地区 合同庁舎	洋野町、普代村、久慈市芸術文化協会、洋野町芸術文化協会、県北広域振興局、県北教育事務所、県文化芸術コーディネーター（沿岸）、岩手県芸術文化協会 【8団体（10名）】
3	県南	9/18 (木)	奥州地区 合同庁舎	花巻市、北上市、遠野市、一関市、奥州市、北上市芸術文化協会、遠野市芸術文化協会、遠野市教育文化振興財団、奥州市芸術文化協会、県南広域振興局、中部教育事務所、県南教育事務所、県文化芸術コーディネーター（沿岸） 【13団体（15名）】
4	宮古	9/19 (金)	宮古地区 合同庁舎	宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村、岩泉町、宮古市芸術文化協会、山田町芸術文化協会、田野畑村芸術文化協会、宮古地域振興センター、宮古教育事務所、県文化芸術コーディネーター（沿岸）、岩手県芸術文化協会 【12団体（12名）】
5	二戸	9/24 (水)	二戸地区 合同庁舎	二戸市、一戸町、九戸村、一戸町文化協会、九戸村文化協会、二戸地域振興センター、県文化芸術コーディネーター（県北）、岩手県芸術文化協会 【8団体（10名）】
6	釜石・ 大船渡	9/25 (木)	大船渡地区 合同庁舎	釜石市、大船渡市、陸前高田市、住田町、釜石市芸術文化協会住田町芸術文化協会、大船渡地域振興センター、沿岸南部教育事務所、県文化芸術コーディネーター（沿岸）、岩手県芸術文化協会 【11団体（15名）】

（全67団体・80名）

(2) 文化芸術団体との意見交換会

＜開催年月日・会場： H26.9.12（金）・盛岡地区合同庁舎＞

	分野	出席者（事務局除く）
1	美術	岩手芸術祭美術展洋画部門、岩手芸術祭美術展現代美術部門、岩手芸術祭美術展版画部門、岩手工芸美術協会、岩手県写真連盟、岩手デザイナー協会、岩手県水墨画協会、県文化芸術コーディネーター（盛岡・県南）、岩手県芸術文化協会 【10団体（12名）】
2	舞台・芸能	（一社）岩手県ピアノ音楽協会、岩手三曲協会、岩手県弦楽研究会、岩手県合唱連盟、岩手声楽研究会、岩手県洋舞協会、岩手県能楽連合会、岩手県能楽連合会、岩手県演劇協会、岩手県民謡協会、県文化芸術コーディネーター（盛岡・県南）、岩手県芸術文化協会 【13団体（16名）】
3	文芸	岩手県吟剣詩舞道総連盟、岩手県茶道協会、岩手華道協会、岩手県歌人クラブ、岩手県俳句連盟、岩手児童文学の会、県文化芸術コーディネーター（盛岡・県南）、岩手県芸術文化協会 【9団体（13名）】

（全32団体・41名）

2 主な意見と対応方向等

【意見の項目】

- (1) 東日本大震災の影響・被災地における状況について
- (2) 平泉の世界文化遺産の効果について
- (3) 文化芸術の情報発信について
- (4) 活動・発表の場・機会について
- (5) 鑑賞の機会について
- (6) 文化芸術を通じた交流について
- (7) 文化施設・文化施設の企画事業等について
- (8) 活動者・芸文協会員の高齢化について
- (9) 後継者・次代の担い手不足について
- (10) 指導者の確保・育成について
- (11) 文化芸術の継承について
- (12) (幼少時からの)文化芸術教育について
- (13) 各地域における文化芸術振興体制について
- (14) 各市町村(行政)における文化芸術振興について
- (15) 指針(の改訂)について
- (16) その他

※ 網掛け部分…特に意見数の多かったもの

項目	主な意見	地域・分野	対応方向・考え方
(1) 東日本大震災の影響・被災地における状況について	沿岸(被災地)にもっと力を入れて欲しい。団体、人、補助など。そこを立て直さないと岩手県全体が上がってこない。	盛岡	被災地の文化芸術復旧の支援は、指針改訂における追加・修正の観点のひとつであり、今後においても取組を進めてまいります。
	道具・施設等が被害に遭った郷土芸能団体もあるが、県や県文化振興事業団、各基金や民間団体からの資金補助を多く受け、復旧は順調に進んでいる。	宮古	
	文化芸術に係る震災復興支援事業(補助金助成等)について、震災から3年間というのではなく、長い期間で実施してほしい。3年半経過し、やっと郷土芸能の復旧にまで手が回るようになってきた、という団体も多い。	釜石・大船渡	
	復興支援公演等により、市民が芸能活動に触れる機会が増えた。また、市内の民俗芸能が取り上げられる機会が増えた。	釜石・大船渡	
活動上の障害	コミュニティの衰退により、活動したくても集まる場所がないといった問題、文化芸術活動者の高齢化により足(移動手段)がないといった問題もある。	宮古	活動の場が限られる中、情報をいかに効率よく得られるかが重要であると考えます。 指針においては「施策方向(1)」の情報発信や「施策方向(2)」の県文化芸術コーディネーターの活用等により、活動の場を得ることができる環境整備をしていきたいと考えます。
	宮古市・釜石市等では文化会館が被災し使えないので、活動場所が不足している。各団体とも場所の確保が困難な状況である。	釜石・大船渡、(文)舞台・芸能	
住民の意識・動向	当村は震災の直接的な被害はなかったが、震災後、地元の子ども達を盛り上げようと、青年団体が「なもみ」を復活させて活性化を図っている。	久慈	被災地の様々な現状を考慮し、指針改訂及び今後における被災地の文化芸術復旧の支援を進めてまいります。
	震災体験を文化芸術によって表現・継承することに関して、継承というよりは、むしろ後ろ向きである人(思い出したくないと思う人)が多いのが現状。	宮古	
	被災地区(海側)と被災地区以外(陸側)、生活再建と文化芸術の復旧を求めている人の間では考え方や意見が違う。「仮設住宅で芸術があるか」という(環境・雰囲気もある)ところもある。	宮古、釜石・大船渡、(文)美術	

項目	主な意見		地域・分野	対応方向・考え方
	行政	「まずは震災復興、生活の再建」という空気があり、長期的目線に立つての文化芸術振興計画が立てられないのが現状。	宮古	
(2) 平泉の世界文化遺産の効果について		「平泉はなぜ価値があるのか」、その意味を県内市町村に対してもっとPRするべき。	県南	平泉の文化遺産に係る普遍的価値、理念への理解等への取組については、指針改訂における追加・修正の観点のひとつであり、世代・地域等が偏ることない普及に努めてまいります。
		平泉文化を知らないのは大人。子ども達には普及が浸透してきているのではないかと考えている。	県南	
		平泉の歴史を教えるのであれば、周辺（地域）の歴史も取り上げないと意味がない。	県南	
(3) 文化芸術の情報発信について		もっと全国の目を岩手に向けさせるようなことが必要。	(文)美術	岩手の文化芸術に関する情報発信については、対象と手段等を考慮し、効果的に行えるよう努めてまいります。
		(県に対し)サブカルチャーの紹介・情報提供を引続きお願いしたい。	県南	
(4) 活動・発表の場・機会について	活動・発表の場	発表の場について、広域の市町村で一体となって発表する場を作ってはどうか。	久慈	活動の場・発表の場に関する情報をいかに効率よく得られるかが重要であると考えます。 指針においては「施策方向(1)」の情報発信や「施策方向(2)」の県文化芸術コーディネーターの活用等により、活動の場を得ることができる環境整備をしていきたいと考えます。
		一番欲しいのは「一緒に取り組める場」。和室や公民館など。手頃な会場が見つかるとうい。ただ、自分達だけでは、このような活動の場を探すことだけでも大変であり、県文化芸術コーディネーターの存在、文化芸術活動支援ネットワークが形成されることは本当に助かる。	(文)文芸	
		練習会場の確保に苦労している。会場予約の連携システムができないか。	(文)舞台・芸能	
		各活動者・芸術団体等の活動に対して、金銭的援助ではなく、労働力・企画の立て方等の援助が必要。どのように動いてよいかわからない団体もある。活動していても「発表の場」がないと存続しない	二戸	
		自主的に発表の場を探している（施設慰問、大型ショッピングモールなど）。会員普及の目的もあるのでよかったなと思っている。お金があまり発生しなくても取り組めることもある。	(文)文芸	参考とさせていただきます。
若者に関する事		若者文化祭のような活動の場ができるというのは良いことであると思う。行政がそういう場を作ってくれるのではないかと。各部門が集約できるような場を。	(文)文芸	若者が日頃培った文化芸術を発表する機会や文化芸術に触れる機会の提供に係る支援は、指針改訂における追加・修正の観点のひとつであり、今後においても取組を進めてまいります。
		組織に入っていない若者に芸術文化体験をさせることが先ではないかと思った。舞台鑑賞のレクチャーについてもヨーロッパでは舞台の後のアフタートークを大事にしている。何のために芸術文化が必要なのか、理念がないと事業は枯れてしまう。	県南	
(5) 鑑賞の機会について	機会の地域間格差	「鑑賞する側」の方について、元々、高齢者が多いから高齢者向けの催し物が多くなる。若い人は見るものがないから、車・公共交通機関を使って外に観に出て行ってしまう。 また、所得の高い家庭の子どもたちは、盛岡、東京に行って鑑賞することができるが、低所得のうちの子は才能・興味があってもチャンスがない。	久慈	地理的条件に恵まれない地域での文化芸術鑑賞事業の実施については「施策方向(3)」の中で、具体的な方策については個別事業の中で引き続き検討していきたいと考えております。
		盛岡などでしか開催しない大型の催事・公演等について、地方からの観客については入場料等減免などの優遇措置があるとよいと思う。	二戸	
		各種公演等の開催費については、民間団体からの資金補助や各種補助金を上手く利用し実施している。「鑑賞の機会が少ない・不足している」といった町民からの要望は特にはない。	宮古	

項目	主な意見	地域・分野	対応方向・考え方
住民のニーズ	近隣地域を巻き込まないと大きい催事は来てくれない。鑑賞機会を増やすにはどうしたらよいか地域で話し合っ て考えなければならない気がする。	二戸	文化芸術活動支援ネットワークの形成等を通じ、地域一体となった文化芸術振興体制づくりに努めてまいります。
	高齢者に人気のある民謡や演歌のコンサートなどは需要があるが、クラシック音楽・オペラなどを当町で開催するとしても観客は集まらないと思う。	久慈	各地域のニーズを十分に捉えながら、事業実施等に努めてまいります。
	「芸術鑑賞を遠くまで観に行ってみたい」という人もいるが、「特に観なくてもよい」と考える人もいる。市民間で文化芸術に対する理解の差はある。	二戸	
(6) 文化芸術を通じた交流について	演奏家の方が当市に来た時に、周辺の学校などで教えてもらう機会（芸術家と地元の人との交流）が出てきている。そのような動きはいいと思う。	久慈	参考とさせていただきます。
	当市の「第九」は36回（年）続いている。他市町村の人も参加・練習に来ており、文化芸術を通じた人の交流が生まれている。	釜石・大船渡	
(7) 文化施設・文化施設の企画事業等について	市民の立場から考えると、演劇などは見所がわからないというところもある。そういうところをレクチャーできる人がいれば、もう少し鑑賞する人も増えるのではないか。	県南	鑑賞・活動のアドバイスについては「施策方向(2)」において、文化施設間の連携等については、「施策方向(4)」において対応できるよう検討していきたいと考えております。
	県を跨いだ広域のコンクールを美術館のネットワークを使って開催するのもよいのではないか。	(文)美術	
(8) 活動者・芸文協会員の高齢化について	芸術文化協会の 参加者や活動者の高齢化が問題 となっている。芸術祭、コンクール等の出品数が減っている（高齢者層の割合が増えている。） 働き盛りの年代の参加者が特に少ない。	全地域、(文)全分野	文化芸術活動を活性化するには、幼少時から学校や家庭等の身近なところで活動に取り組み、継続できる環境づくりが重要であると考えます。 指針においては主に「施策方向(3)」において検討していきたいと考えております。
	活動者の高齢化は、震災以前からの問題である。	釜石・大船渡	
(9) 後継者の担い手不足について	市町村内(各市町村芸術文化協会内)の活動者(会員数・団体数)が減ってきている。 → 各団体間で会員の取りあいとなっている。 → 活動を休止する団体も出てきている。 → 芸術祭、講座等に参加する者が減ってきている。 → 村内の神楽保存会について、現在踊り手がいない。近隣の町から踊り手を「借りて」踊っている。	全地域、(文)全分野	
	郷土芸能も含め、文化芸術に対する若者の関心がない（又は趣味・関心が多様化している。）	盛岡、宮古	
	人口減・人口(若い世代)の流出 が進んでいる。	久慈、二戸、釜石・大船渡	
	後継者不足の話は、毎回の会合・会議で出る話。それに対しての取組についてどうすればよいか模索しているところ。	二戸・釜石・大船渡	
	芸術文化協会の加盟団体がどんな活動をしているのかを市民にお知らせしようということで今努力している。（団体に入ってもメリットがないと考える人が増えている。）	久慈	
	町内の文化芸術団体の会員数増に向けては、住民との交流から始め、会員を増やすことが当面の目標。	宮古	
	（文化芸術を）続けることで古いものが新しいもの変わっていくとしても、それが次世代育成や生涯教育に繋がっていくと思う。	盛岡	

項目	主な意見	地域・分野	対応方向・考え方
	団体の中で、岩手大学の卒業生が10名程おり、どんどん育っている。	(文)美術	
(10) 指導者の確保・育成について	(郷土芸能について) 小学校に教えにいくのも、 教える人がいなくて限界。今後続けていくのが難しい状況 になっている。 40～60代の中間層の指導者がいない。皆、仕事も忙しい。 指導者の高齢化、病気等で会員団体やその地域の 活動が中止になるケースが増えている。	久慈、二戸、(文)美術	指導者の確保・育成については、活動者の育成と併せ、引続き「施策方向(3)」において検討していきたいと考えております。
	プロの指揮者が県内にはいないため、ジュニアオーケストラでは県外からプロの指揮者を呼び、指導を受けている(同時に、招へい経費もかかる)。	(文)舞台・芸能	
	岩手大学からたくさん優秀な人が出ているが教員に採用されないで他県に流出している。合唱の練習で学校の先生がピアノを弾けないという事実がある。生徒がかわいそうである。	(文)舞台・芸能	
(11) 文化芸術の継承について	高齢者の方がやってきたもの(文化芸術)と、若い人がやりたいものとは別に動いている。	盛岡	指導者の確保・育成については、活動者の育成と併せ、引続き「施策方向(3)」において検討していきたいと考えております。
	郷土芸能は普段の活動として続かない。郷土芸能は代表が偉く、格式化して全部知っている。そこが倒れると後が続かなく、継承がうまくいかない。	盛岡・二戸	
	学校の統合により、それぞれの学校で取り組んでいた郷土芸能をどうやって引き継いでいくか という話は出ている。	県南・二戸・釜石・大船渡	
	文化の継承について、子ども達に興味を持たせることは良いことであるが、高校卒業後、就職、進学で地元を離れてしまうとその後の継承がなくなる。	二戸・釜石・大船渡	
(12) (幼少時からの)文化芸術教育について	芸術・芸能、郷土芸能等、小学校、中学校では学校においても取り組んでくれるが、高校生以上になるとそうはいかない(続かない・取り組む環境がない)。	久慈、宮古	幼少時からの文化芸術教育について、活動者の育成と併せ、引続き「施策方向(3)」において検討していきたいと考えております。
	小学校で 伝統芸能の取組 はあっても、中学校になると続けたいという意思がある子はいるとは思うが、 部活などで続けることが難しい 。一方、学校教育の現場では、部員を確保し部活を維持していくのも精一杯となっている。 習い事が続けられる環境づくり、小さい時からの芸術が両立できる環境づくりできないか。	二戸、釜石・大船渡、(文)舞台・芸能、(文)文芸	
	小学校、中学校で体験をしておかないと、大人になってから鑑賞が身に付かない。	宮古	
	鑑賞事業の実施だけではなく、子どもたちに文化芸術を教える際は「楽しさ」を教えないと継続していかない。また、その文化芸術の背景や本当の意味を教えるべきである。	久慈、県南	
	学校教育の場で美術館をおおいに利用するということがあっていいのではないか。学校教育で美術館に行くことはほとんどない。	(文)美術	
	地域の文化芸術団体と学校との連携がうまくいっていない。 文化芸術振興は、行政ではなく、特に学校教育との関係が重要である。	(文)文芸	
(13) 各地域における文化芸術振興体制について	市のホールと芸術文化協会の連携についての運営上の問題もある。そこに若い人たちをどう取り込んでいくかが課題。	県南	各地域において文化芸術従事者が連携・協力し、活動を活性化できるよう、「施策方向(4)」の文化芸術活動支援ネットワークの形成に努めてまいります。
	学校の先生が「やってみないか」と声を掛け、指導者を招き、学校・地域全体で取り組んだことによって復活した郷土芸能があり、今もその活動が続いている。	釜石・大船渡	

項目	主な意見	地域・分野	対応方向・考え方
	文化芸術に関する意見交換ができる今日のような会議はとて も有意義 である。指針改訂の時だけでなく、 各団体が参集し議論・情報交換を行う場が定期的にあると良い 。	盛岡、宮古、二戸、(文)文芸	
	市と芸術文化団体との望ましい連携の在り方の意見の交換が十分に出来ていない。	盛岡	
(14) 各市町村(行政)における文化芸術振興について	県の担当の職員の市町村への配置をお願いしたい。町の存続と芸術文化の活性化は繋がっている。	盛岡	各地域において文化芸術従事者が連携・協力し、活動を活性化できるよう、「施策方向(4)」の文化芸術活動支援ネットワークの形成に努めてまいります。
	行政の文化芸術担当職員だと2、3年で異動してしまい、企画的なもののノウハウ、知識がないと感じている。 また、行政の文化芸術振興に対する人的余裕がない(1人で生涯学習、文化財等を担当している)。	県南、宮古	
	ぜひ文化振興担当職員の研修の場も設けて欲しい。	宮古	
	文化芸術の面において、働き盛りの年齢層、若者に活躍してもらいたいと考えているが、具体策がない。	二戸	
	まちなかギャラリーとして、市民の皆さんが持っている絵画作品や市で持っている絵画作品を商店街に展示するという事業(「市民との協力により少ない経費で大きな事業効果」のこと)をやっている。	県南	
(15) 指針(の改訂)について	生活文化の重要性を強調してほしい。生活文化は文化芸術の基礎をなすもの。精神的な育成、地域の特色、方言もそういうものから培われたものではないか。	盛岡	「生活文化分野」の重要性を十分に認識したうえで、指針改訂においてもその方策を充実していけるよう検討いたします。
	実際に活動されている団体が、活動しやすいような指針になればいいと思う。	県南	
	指針はもっと平易な文章、わかりやすい文章で誰が見ても分かるものにするべき。(「メセナ」の意味がわからなかった。)	(文)美術・文芸	
	今回の指針の改訂をどのような形で周知していくのか?知らなかったりするのも大きな要因であると思うので、周知が必要だと思う。	県南	
	指針の普及について、ホームページだけでの発信は意味がない。特に高齢者は、ホームページを見ない(見られない)。	(文)美術	
(16) その他	地方が見直されている今、それぞれの地域の良さを皆が感じ取っていればもっと豊かになるのかなと感じている。	盛岡	参考とさせていただきます。
	文化活動について、県北地域は他の地域と比較し活発でない印象。差を感じている。	二戸	